



体と心の健康が必要と話す日野原重明氏—豊橋市藤沢町で

心臓も心も健康に

聖路加国際
病院理事長

日野原氏が講演

豊橋

心臓病予防や高齢者医療を考える催し「ハートの日」が十日、豊橋市内で開かれた。聖路加国際病院(東京)の日野原重明理事長(ふじ)が講演。病気の兆候を見落とさないことや気持ちを明るく保つ方法を約二千人に語った。

日野原理事長によると、激しい胸の痛みや冷や汗、吐き気は心筋梗塞(こうそく)が原因の可能性があり、治療のタイミングが遅れると生死にかかわる。が、痛みを感じる神経が鈍った高齢者や糖尿病患者は明確な兆候が無いケースもある。講演のテーマは「人間

のもつ二つのハート」。日野原理事長は、心臓(ハート)だけでなく、心(ハート)の健康も重要視。「朝、起きたらその日の楽しい出来事を思い浮かべ、友人との会話では明るい声で話せば、さわやかな気持ちになれる」と説いた。

市内の心臓病専門病院「豊橋ハートセンター」の鈴木孝彦院長らでつくる実行委員会が主催、中日新聞社後援。無料の心電図検査や血液検査、市消防本部の救急蘇生(そせい)法講座もあり、会場は多くの市民でにぎわった。(丸田 稔之)